

第 42 期第 7 回理事会議事録

日 時：2023 年 3 月 22 日（水） 13 時 00 分～16 時 00 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳曉典，荒川知子，池上雅明，稲津將，植田宏昭，榎本剛，齋藤篤思，佐藤正樹，高谷康太郎，竹見哲也，竹村俊彦，坪木和久，橋本明弘，早坂忠裕，以上 16 名

欠席理事：中村尚，堀之内武，三好建正，渡部雅浩，以上 4 名（理事数現在 20 名）

出席監事：吉田聡

その他の出席者：勝山税，齋藤誠一郎，萬納寺信崇（事務局）

議 題

1. 協議事項

1) 会員の新規加入等について

新入会員 49，退会 17 を全会一致で承認した。2023 年 3 月 15 日現在，会員数 3,348 名で個人会員は 3,155 名。

2) 第 42 期第 6 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

3) 第 42 期臨時理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

2. 報告事項

1) WG からの報告

「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された。

・「天気」の電磁的方法による配布への移行とオンライン閲覧機能の強化について，総会で説明する資料案と 2023 年度事業計画の記述の変更を確認するとともに，WG はオンライン機能の充実を含む議論を 2023 年度も継続することとした。

・あわせて，冊子体を継続配布することとなる団体会員の会費について，検討を継続することとなった。

2) 業務執行理事の報告

① 庶務担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

・掲載許可

1) 申請者：三上岳彦

掲載元①：日本気象学会機関誌「天気」（2022 年）第 69 巻 7 号，379-385 ページ。

タイトル：気象庁および気象庁外の降水量データによる 1982 年 7 月 23 日の長崎

豪雨の解析（二宮洸三）

掲載図：第 2 図（p.380）

掲載元②：日本気象学会機関誌「天気」（1995 年）第 42 巻 7 号，417-427 ページ.

タイトル：東京環状八号線道路付近の上空に発生する雲（環八雲）の事例解析（甲斐憲次・浦健一・河村武・朴恵淑）

掲載図：第 4 図（p.422）

掲載元③：気象研究ノート（1998 年）第 191 号，73-83 ページ.

タイトル：諏訪湖結氷記録からみた 550 年間の気候変動（三上岳彦・石黒直子）

掲載図：図 5.9（p.79）,図 5.10（p.80）

掲載先：Climate of Japan：Present and Past

著者名：Takehiko Mikami

発行者：Springer Nature（2023 年）

- 2) 申請者：SG ホールディングス株式会社 ESG 推進部ブランド戦略ユニット

掲載元：日本気象学会 2019 第 53 回夏季大学資料

タイトル：「地球温暖化で変わる日本の雪」（川瀬宏明）

掲載図：第 12 図 「10 年に一度の日降雪量の変化」

掲載先：SG ホールディングスグループ「TCFD レポート」

※「TCFD レポート」は社外向け資料であり、ウェブサイトに PDF 資料として掲載する

・後援名義等使用依頼受付

- 1) 名称：太陽光発電部会第 35 回セミナー「太陽光発電と AI の基礎・応用」

主催：一般社団法人日本太陽エネルギー学会太陽光発電部会

期日：2023 年 4 月 17 日(月)

会場：オンライン開催

名義：協賛

- 2) 名称：防犯防災総合展 2023

主催：防犯防災総合展実行委員会・一般財団法人大阪国際経済振興センター
テレビ大阪株式会社

期日：2023 年 6 月 8 日～9 日

場所：インテックス大阪（大阪市住之江区）

名義：後援

- 3) 名称：日本流体力学会 年会 2023

主催：一般社団法人日本流体力学会

期日：2023 年 9 月 20～22 日

場所：東京農工大学小金井キャンパス

名義：協賛

- 4) 名称：第 40 回エアロゾル科学・技術検討会
主催：日本エアロゾル学会
期日：2023 年 8 月 30 日～9 月 1 日
場所：美喜仁桐生文化会館（桐生市市民文化会館）（群馬県桐生市）
名義：共催

- ・ 寄附者リスト（2023.1.24～2023.3.21）
なし
- ・ 2023 年度「日本気象学会賞」「正野賞」「岸保・立平賞」の投票結果
投票していない理事が若干名いたことに危惧が示された。
- ・ 第 42 期第 1 回支部長会議（概要）

② 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

- ・ 2023 年 1、2 月分の収支及び現預金検査報告
- ・ 流動資金（運転資金）の月ごとの推移
- ・ 研究連絡会の 2022 年度活動状況，2023 年度活動計画（オゾン研究会）
- ・ 研究連絡会補助金申請・実施報告書
天気予報研究連絡会
航空気象研究連絡会

3) 委員会報告

講演企画・・・以下の内容が報告された。

- ・ 2023 年度春季大会の準備状況 講演件数は前回春季大会より大幅増。
- ・ 2023 年度秋季大会の準備状況 専門分科会テーマ 9 件
- ・ 参加申込受付システム（イベントペイ関連の経緯）
- ・ 受賞記念講演動画を会員向けに公開。会員 Google アカウントで閲覧可。
- ・ 2023 年度春季大会・秋季大会のあり方について打合せ。2024 年度から新しい参加費が適用できるように進めたい。
- ・ 開催担当の順番について支部長会議での指摘もあり，再検討する。

天気編集・・・以下の内容が報告された。

- ・ Vol. 70 No. 2, 3, 4 (2023 年 2, 3, 4 月) の掲載記事と，Vol. 70 No. 5 (2023 年 5 月) の予定記事。

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された。

- ・ Vol. 101 No. 2 (2023 年 4 月) の掲載論文と，Vol. 101 No. 3 (2023 年 6 月) の掲載予定論文。審査中の論文リスト。
- ・ 投稿数がかかなり減っている。投稿をお願いしたい。

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された。

- ・ 論文の投稿・公開状況

- ・2023年1~2月の掲載論文：6編
- ・2022年英文レター誌 SOLA 論文賞受賞者について

表彰関連・・・以下の内容が報告された.

- ・松野賞，春季大会で34件のエントリーがあり，講演企画で同時申込できるようになったことが大きい.

地球環境・・・以下の内容が報告された.

- ・2023年度春季大会「専門分科会」にて教育と普及委員会と共催で「気候変動に関する教育・知識普及の現状と問題点」をテーマに議論予定.

気象災害・・・以下の内容が報告された.

- ・2023年度春季大会「専門分科会」で「激甚化・頻発化する気象災害の軽減に気象学と関連研究はどう貢献するか？」をテーマに今後の活動の展望などを議論予定.
- ・第15回防災学術連携シンポジウム（2023年4月11日（火）13時，オンライン）にて「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」をテーマに最新の研究取組を共有し今後の防災研究のありかたを議論する.
- ・「関東地震100年企画」事業として，第16回防災学術シンポジウム（2023年7月8日（土）日本学術会議講堂）と記念冊子発刊を予定. 気象学会からは，関東大震災時の気象状況の再現に関する研究の成果を投稿予定.

教育と普及・・・以下の内容が報告された.

- ・気象サイエンスカフェを2月26日（日）みなと科学館+オンラインで実施. 講師：平田英隆（立正大学）.
- ・ジュニアセッション. 5月16日~17日16:00-18:00を予定. 多数の参加を望む.
- ・会計報告

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された.

- ・2月9日に委員会をオンライン開催
- ・委員会補助金申請
- ・男女共同参画学協会連絡会関連 ハラスメントはまだ存在していることを認識し
て欲しい. 委員会としてできることを考える.
- ・2月28日に女性会員の集いオンライン開催
- ・保育支援体制に関する課題と改善案

広報委員会設立準備・・・以下の内容が報告され、細則の改正が承認された.

- ・4月1日をもって広報委員会と設立し，同委員会では広報とともに情報基盤に関する
こと担当することとしたこと，これに伴い電子情報委員会を広報委員会に改め
るなど細則を一部改正する案が説明され，全会一致で承認された.

4) その他

1. 「風工学シンポジウム」幹事学会の継続について
「風工学シンポジウム」を主催する幹事学会を5学協会の持ち回りで務めてきており、次期幹事会は気象学会の順番となる予定だが、風工学にかかわる若手研究者の減少などにより現在の気象学会関係者で運営することは難しい状況となっている。議論の結果、同シンポジウムには幹事学会ではなくかかわっていくことで関係学協会に話をしていくこととなった。
2. 日本気象学会の運営に関する課題整理等のためにコンサルタント会社を活用する契約をまもなく行うことが報告された。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2023年4月14日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 吉田 聡